

『密教大辞典』p. 32c, s.11: アバン阿鑊

阿字は胎藏大日理法身の種子にして、鑊字は金剛界大日智法身の種子なり。故に此二字を以て胎金
両部理智の種子と習ひ、両部を呼ぶには此二字を以てすることあり。祕藏記鈔四に三種悉地軌を引
きて阿を理の種子とし鑊を智の種子とするの証を示し、且つ其所由を形音義の三方面より詳釈す。
又阿字は地輪の種子、鑊字は水林の種子なり。(祕藏記鈔四・鑊阿界秘事等) 祕藏記云、
〔以下、『祕藏記』「阿字者・・・」から「・・・仍爲智法身種子」を引く。〕

『祕藏記』本 TZ. I 2921 i 4c24-5a3:

阿字者毗盧遮那理法身種子。鑊字者智

法身種子。理智不相離。理起智用。智起大

悲。大悲喻水輪。鑊字者水輪種子。仍爲智

法身種子。如何文字。假令有一阿字。呼阿

聲卽能詮是也。以呼阿顯無名。阿卽無故。

是爲所詮。是卽字。夫天竺以名句文身成

義。假令以諸行無常四字成義。諸者名。諸

行無常者句。以下呼四字音聲長短巨細屈

曲爲文。以四字聚集爲身